

主 題：より主に喜ばれる者を目指して  
 聖書箇所：ペテロの手紙第二 3章18節

**「私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。このキリストに、栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。アーメン。」**

このみことばは私たちの教会の今年度のみことばですが、それを今日はごいっしょに学んで行きましょう。「成長しなさい」というのが神からの命令です。現在形の命令であるこのみことば、ペテロはここでクリスチャンたちに対して「あなたたちは継続して成長して行くことが必要である」と教えるのです。ペテロ第二の手紙も第一の手紙と同様に、クリスチャンに対して記された手紙です。ですから、神の恵みによって救われたあなたが成長することを神は命じておられるのです。成長することは、してもしなくてもどちらでも良いのではなく、イエス・キリストを信じる者、救われた者たちがしなければならないことです。

☆では、なぜ私たちクリスチャンは信仰において成長することが必要なのでしょうか？

1. それは神が望まれること、神のみこころだからです。
2. 私たちの喜びが満ちあふれたものになるからです。ガラテヤ5：22にパウロは御霊の実がどういうものか記しています。「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、」とあります。つまり、私たちの信仰が成長するほどに、私たち自身が神の喜びによって満たされ続けて行くのです。
3. 信仰の成長によって誘惑に負けることがないからです。このペテロ第二の手紙を見ると、特に3：17でペテロは警告を与えています。「愛する人たち。そういうわけですから、このことをあらかじめ知っておいて、よく気をつけ、無節操な者たちの迷いに誘い込まれて自分自身の堅実さを失うことにならないようにしなさい。」と。多くのクリスチャンたちが偽りの教師たち、間違った教えを吹き込む人々によって惑わされてしまっていること、また、これから惑わされて行くことを警告するのです。彼らがどういう人々であるのかは2章で教えています。敬虔そうであっても実は神のみことばから外れたことを平気で教える、彼らの目的というのはクリスチャンが神に従って行かないようにするのです。神はクリスチャンが成長することを望んでおられます。しかし、この世の神であるサタンはそれを望まないのです。だから、様々な形でクリスチャンのうちに働きクリスチャンが真理から外れるようにと誘惑して行きます。そのような動きがあるのです。どの時代でも、どの国でも、特にクリスチャンが神に忠実に生きようとするならサタンの標的になります。自らを守ってゆくために必要なことは信仰の成長です。それによって、様々な惑わしや誘惑から自分を守って行くことになるのだと教えるのです。

パウロもエペソ人への手紙の中でこのように教えています。教会はどのような働きをするところなのか、4章でそのことを教えているのですが、11節に「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。」とあります。キリストご自身が牧師を立てたと。何のために？12-15節「それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、：13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」と、これが教会の責任です。牧師の務めはみことばを語り続けて行くことです。みことばによって教会員を養って行くことです。そして、教会員が働きを為して行く。そのことを明確に教えています。なぜその働きが大切なのか、14-15節「それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたせられされたりすることがなく、：15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。」と、何のためにみことばを学び成長するのか、それによって様々な間違った教えに惑わされて行かないためだと言います。信仰の成長によって私たちは自らを守って行くことができるのだとパウロもペテロと同じように教えるのです。

4. 信仰が成長するのは救われているからです。  
 信仰が成長するのは本当のクリスチャンであることの証拠なのです。Ⅱテサロニケの1章で、パウロはテサロニケのクリスチャンたちの信仰が成長していることを喜んでいました。神に感謝しています。1：3「兄弟たち。あなたがたのことについて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです。」とあるように、パウロが神に感謝した理由はそのクリスチャンたちが成長したからです。新しく生まれ変わったら私たちは、新しい願いを持ち、新しい目標をもって

生きて行きます。神に喜ばれようと生きて行くのです。だから、靈的に成長するという願いは救われた人が持っている願いです。クリスチャンの当然の願いです。

ここで、成長していないクリスチャンの特徴をいくつかあげます。

- 1) いつも喜んでいることができない。靈的なクリスチャンはいつも喜んでいます。靈的に未熟な人はいろいろな問題に遭遇するとすぐに喜びが無くなって行きます。
- 2) 人に仕えることができない。これは私たちがもって生まれた罪の性質です。私たちは人に仕えることよりも人から仕えられることを期待するのです。信仰が成長するなら自分のことよりも人のために何かしたいと思いはじめます。この人の成長のために、この人の益のために何をしようかと考え始めるのです。ところが、成長していない人は私のために何をしてくれるの？と言います。
- 3) その人は必ず分裂を起こします。靈的に幼い人はこの人は好き、あの人は嫌いと言って分裂を起こします。
- 4) 人を愛することができない、人に敵意をもつのです。嫌いな人がいるのです。どうしてもあの人が嫌い、それは幼稚だからです。神が私たちのことを嫌いと言われても仕方がないのです。私たちはそういう存在だからです。でも神は私たちを愛してくださっています。信仰が成長することによって、どうぞ神よ、あなたがすべての人を愛しておられるようにすべての人を愛することができますようにと願うのです。
- 5) すぐ間違った教えに惑わされてしまいます。いろいろなことを聞くとその方に行き、また別のことを聞くとそちらの方に行ってしまう、浮き草のようにフラフラするのです。しっかりしていないからです。
- 6) すぐに落ち込んでしまいます。日々いろいろなことが起こって来ますが、それらのことにすぐ落ち込んでしまうのです。

成長していない人はこのような特徴をもっています。私たちはこれらのことから成長して行かなければなりません。

☆ペテロが教えている **3：18から**大切なことを学んで行きましょう。ペテロはここで二つのことを言っています。「恵みと知識において成長するように」と。

### A. 恵みにおける成長

言い方を変えるなら、「神の力によって信仰生活を生きる」ということです。ここでペテロが命じていることは、私たちがどのように信仰生活を生きて行くかということです。

◎神の力によって生きて行くように。

「恵み」ということばはよく耳にしますが、ある人は「神の一方的なご好意である」と言います。私たち罪人が受けるにふさわしくないものを受けると、私たちにふさわしいものは罪のさばきです、永遠の地獄です。そのような私たちに神はさばきではなく救いを備えてくださったのです。「恵み」ということを考えて行くとき、私たちがすぐに思い出すのは神の備えてくださった救いです。「救い」ということを考える時、私たち罪人が義とされる、正しい者とされる、罪がゆるされる義認ということばを思い出します。イエスを信じたならその瞬間に私たちは聖いものとされる、罪が赦されるのです。そして、私たちはいつか栄光のからだに変えられるという希望をいただくのです。栄化です。信じた瞬間にこの約束は私たちのものになるのです。そして、この約束は変わることがないのです。そして、天が約束されそこで神とともに永遠を過ごすのです。このようなすばらしい希望を神からいただくのです。これは私たちが何かをしたからではありません。誉められるようなことが何ひとつない私たちを神は一方的に愛して救いを備えてくださった、だから恵みなのです。

そして、この恵みは継続して私たちに与えられ続けて、この地上の信仰生活において、私たちは神の恵みによって生きて行くのです。神は今日という日をくださった、いのちをくださった、今、置かれている状況は神があなたに与えてくださったのです。神はあなたが成長するためにその境遇を与えられたのです。神からのすばらしいプレゼントなのです。そこであなたが神を見上げて行くなら、問題から解放されて行きます。このようなことはみことばに多く書かれています。一つ見てみましょう。Ⅱコリント 8：1-2「さて、兄弟たち。私たちは、マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思ひます。：2 苦しみゆえの激しい試練の中にあつても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となつたのです。」、マケドニヤのクリスチャンたちは大変な状況にあつたのです。彼らは激しい試練の中にいたとあります。いろいろな苦しみを経験していました。しかし、彼らはその中でも喜んでいました。喜びがあふれ出ていたのです。そして、乏しい中でも惜しみなく捧げました。彼らは問題に押し潰されるのではなく、神の喜びをもって生きたのです。彼らは神を見上げていたからです。1節に「マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵み」とあります。神の恵みによって彼らは成長し喜びをもって生きたのです。

不可能と思える状況でも無理と思われるときでも、私たちが神を信頼して歩み続けるときに、その状況が私たちにとって信仰が成長する機会となるのです。だから、その状況の中で学ぶべきことをしっかり学べるようにと神を見上げることが教えられているのです。神は救われた私たちがキリストに似た者に変えられて行くことを望んでおられます。神はそのようになさろうとしておられます。それが救いです。義とされたこと、栄光のからだを与えられたこと、そして、私たちの日々の生活において一瞬一瞬キリストに似たものへと変えようとしてくださるのです。そのために神はさまざまな出来事や境遇をお使いになるのです。今の苦しみは私たちのために神が与えてくださったのです。ある人は罪を犯して背いているかもしれません。神はその人たちの目を覚まさせようとして懲らしめを与えられます。それが必要なのです。そこで目を覚まさないければ彼らは神にあって成長しないのです。神の前に正しく生きようとしている人たちにもいろいろなことを神は与えられるのですが、それは、それらを通して成長して行くためです。問題のない生活は私たちに大切なことを教えません。問題の中で神に信頼することを学ぶのです。この中で神は私に何を教えてくださるのでしょうか？と、そのような信仰者が変わって行くことができるのです。なぜなら、私たちは神がどのようなお方かを知っているからです。

私たちは日々の生活を通してこのすばらしい神のみわざを信頼して生きて行くことです。そして、もう一つ付け加えるなら、私たちが学んできたみことばを実践することです。私たちの信仰生活において私たちが余り変わって来ないという現実を覚えるなら、それはみことばを聞いてはいてもそれを実践しないから、みことばが教える通りに生きて行きたいから、どうぞ私を変えてくださいと願って神の力によって生きて行こうとしているかどうかです。恵みというのは神の命令を実践して行く力です。そして、その力をも神は備えてくださっているのです。神が言われるように生きて行きたい、どうぞ、あなたの力、助けをくださいと神に願い求めるとき、神が私たちを助けてくださり神が実践させてくださる、これが恵みによって生きて行くことなのです。ペテロはそのように教えたのです。

## B. 知識における成長

二つ目にペテロが教えることは「知識において成長する」ことです。信仰生活において私たちに必要なことは正しい知識を得続けて行くということです。ペテロが1ペテロ2：2で教えるように「**生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。**」と、私たちはみことばによって成長するのです。イエスはこのように教えられました。マルコ7：8-13を見ましょう。「**あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。**」：9 また言われた。「**あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神の戒めをないがしろにしたものです。**」：10 モーセは、『**あなたの父と母を敬え。**』また『**父や母をののしる者は、死刑に処せられる。**』と言っています。：11 それなのに、あなたがたは、もし人が父や母に向かって、私からあなたのために上げられる物は、**コルバン**（すなわち、ささげ物）になりました、**と**言えば、：12 **その人には、父や母のために、もはや何もさせないようにしています。**：13 **こうしてあなたがたは、自分たちが受け継いだ言い伝えによって、神のことばを空文にしています。そして、これと同じようなことを、たくさんしているのです。**」。パリサイ人や律法学者に対してイエスは、彼らが神のおことばよりも自分たちの言い伝えを固く守っていたことを指摘して、彼らを非難されました。いつの間にか、伝統や習慣が神のおことばより優先されて行くのです。気を付けなければいけないことです。私たちはみことばにしっかり立ち、みことばが何を教えているか、それに基づいて生きて行くことです。そのために私たちはみことばを学び続けて行くことが必要なのです。

詩篇のみことばを見ましょう。119篇の中から、この著者がどのような生活を送っていたのかということを見ても私たちが見て取ることができます。147節に「**私は夜明け前に起きて叫び求めます。私はあなたのことばを待ち望んでいます。**」とあります。夜明け前に起きてみことばを見ていたのです。97節には「**どんなにか私は、あなたのみおしえを愛していることでしょうか。これが一日中、私の思いとなっています。**」とあり、ずっと神のみことばを考えているのです。164節を見ると「**あなたの義のさばきのために、私は日に七度、あなたをほめたたえます。**」と、この人は日に7回、主をほめたたえているのです。55節「**主よ。私は、夜には、あなたの御名を思い出し、また、あなたのみおしえを守っています。**」、148節「**私の目は夜明けの見張りよりも先に目覚め、みことばに思いを潜めます。**」、62節「**真夜中に、私は起きて、あなたの正しいさばきについて感謝します。**」。全く朝から晩まで、真夜中まで、ずっとみことばを考えているのです。このような信仰の先輩がいたのです。なぜこのようにしたのでしょう？みことばを愛していたからです。私たちは今日このようにみことばを見ていますが、次に見るのが来週の日曜日なら悲しいことです。もしそうなら、みことばを愛していますといくら言ってもそれは嘘です。みことばは私たちを成長させてくれます。だから、詩篇の作者は朝から夜までみことばを考えていたのです。みことばによって神のみこころを知り、私たちの愛する神がどのようなお方かを知って行くのです。信仰の成長のために必要なものはみことばであり、そのみことばの学びです。

3：18をもう一度見て、ペテロは「**…成長しなさい**」と言っています。クリスチャン一人一人の意

志に働きかけているのです。私たちの意志へのチャレンジがここにあるのです。「あなたはどうしますか?」、「あなたはこれからどのように生きて行きますか?」と。神が望んでおられることは、「神さま、私はただ聞くだけの者でありたくありません。あなたの助けをいただきながら聞いたみことばに従って行きたいです。なぜなら、私は変えられたいから、この地上の人生をもっともっと主に喜ばれるものに変えられて行きたいから、もっとあなたに喜ばれるクリスチャンに変えられて行きたいから、そして、みことばを通してもっとあなたを知って行きたいから、そのように生きて行きたいのです。」との決心と選択です。神が私に望んでおられることは「成長しなさい」です。

最後に「このキリストに、**栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。アーメン。**」と頌栄で終わります。なぜなら、実際に私たちの信仰を成長させてくださるのは神だからです。Iコリント3：6，7に「**私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。：7 それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。**」とある通り、ほめたたえられるのは神なのです。私たちの信仰が成長したときに、ほめたたえられるべき方は「神」です。だから、ペテロはここでキリストにほめ歌をささげているのです。それはイエスが力を与えてくださったから、そして、イエスが神であるからほめ歌を歌うのです。ペテロは「**栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。**」と言いました。栄光がとこしえにありますようにと言えるお方は神おひとりだけです。神だけが栄光をお受けになるにふさわしいお方です。イザヤ42：8ではこのように言います。「**わたしは主、これがわたしの名。わたしの栄光を他の者に、わたしの栄誉を刻んだ像どもに与えはしない。**」と、栄光は神だけのものだとして、そして、ペテロはその栄光をイエスは受けるにふさわしい、と言ったのです。イエスが神であることを確信していたのです。ペテロの信仰がこのことばにも現われているのです。イエスは私を罪から救ってくださった、恵みによって私を変え続けてくださった、そして、私に栄光のからだを与え、私はイエスとともに永遠を過ごすのです。だから、この方に栄光があるように、この方がほめたたえられるようにと言うのです。私たちが心から誇るべきお方はこのイエスです。私たちが心からほめたたえるべきはこのお方です。そして、私はこのお方の前にどのように歩いて行くのか考えなければなりません。「成長しなさい」と教えられました。みことばを実践することで、みことばをしっかりと正しく蓄えてゆくことで、神が約束してくださった成長を自分のものにしてください。神が私を変えていってください。